

議題1 令和3年度上下水道事業の財政状況について

それでは、議題の(1)「令和3年度上下水道事業の財政状況について」ご説明申し上げます。

お手元の資料2 1ページ「天理市水道事業の財政状況」をご覧ください。

最初に、水道事業についてご説明いたします。資料の左側に令和3年度水道事業決算について、収益内訳と費用内訳を円グラフと表で示しております。

(1) 令和3年度 水道事業収益の「収益内訳」図-1の円グラフと表-1をご覧ください。

収益の総額は18億576万4千円で、収入の主なものといたしましては、給水収益の水道料金収入が16億7,690万3千円で全体の92.8%を占めております。また、長期前受金戻入は1億1,639万8千円あり、全体の6.4%を占めております。

(2) 令和3年度 水道事業費用の「費用内訳」図-2の円グラフと表-2をご覧ください。

費用総額は15億4,640万7千円で、支出の主なものといたしましては減価償却費が5億6,250万2千円、県営水道の受水費が4億300万円で、合わせますと全体の62.4%を占めております。

この結果、表-3にございます令和3年度の損益収支は、長期前受金戻入を含みまして2億5,935万7千円の純利益となりました。

続きまして資料の右側の(3)「前年度比較表」をご覧ください。

令和3年度と前年度の令和2年度の比較表となっております。前年度との比較で主な増減要因を説明させていただきます。

始めに表-4にございます。年間有収水量は、生活用等の使用水量が減少したことにより、前年度に比べ7万8,853^m³減少いたしまして、720万7,

682 m³となりました。

次に供給単価でございます。これは、ご使用の皆様からいただいております水道料金の1 m³当たりの平均単価でございます。水道料金体系ではメータの大きさや使用水量により1 m³当たりの単価に違いがございます。令和3年度は、前年度に比べ1円/m³上がり233円となりました。

次に給水原価でございますが、これは有収水量1 m³当たりの経費でございます。柚之内浄水場の更新工事が終了したことによる減価償却費の増加で前年度に比べ5円/m³上がり198円となりました。

続いて下の表－5でございます。水道事業収益のうち、給水収益は年間有収水量の減少に伴い、前年度に比べ1,417万4千円減少の16億7,690万3千円となりました。そのため、収益合計は、前年度に比べ815万1千円(0.4%)減少の18億576万4千円となりました。

一方、水道事業費用につきましては、受水費、修繕費及び材料費等が減少しましたが、減価償却費等の増加により、前年度に比べ2,559万9千円(1.7%)増加の15億4,640万7千円になりました。

以上のことから令和3年度の当年度純利益は、前年度と比較しまして3,375万円減少となりました。

今後も水需要は減少傾向にあり、給水収益の減少は長期的に続くと思われませんが、継続してコスト削減を行い、安定経営を目指してまいります。

2ページ・3ページは、水道事業の損益計算書・貸借対照表をつけておりますので、ご清覧下さい。

続きまして、4ページ「天理市下水道事業の財政状況」をご覧下さい。

下水道事業についてご説明いたします。

水道事業と同様に、資料の左側に令和3年度下水道事業決算を収益内訳と費用内訳の円グラフと表で示しております。

(1) の令和3年度 下水道事業収益の「収益内訳」図－3の円グラフと表

－6をご覧ください。

収益の総額は26億3,842万9千円で、収入の主なものといたしまして、下水道使用料収入10億5,775万8千円、市からの補助金11億2,692万3千円でございます。合わせますと全体の82.8%を占めております。また、長期前受金戻入が4億1,654万5千円で全体の15.8%を占めております。

(2) 令和3年度 下水道事業費用の「費用内訳」図－4の円グラフと表－7をご覧ください。

費用総額は21億7,601万6千円で、支出の主なものといたしましては減価償却費が12億3,495万2千円、流域下水道維持管理負担金が4億4,452万円で、合わせますと全体の77.2%を占めております。さらに、支払利息が2億6,000万2千円で全体の11.9%を占めており、約9割が固定的に必要な費用でございます。

この結果、表－8にございます令和3年度の損益収支は、他会計からの補助金、負担金に依存するものですが、先ほどの長期前受金戻入を含みまして4億6,241万3千円の純利益となりました。

下水道事業は令和3年度も多額の繰入金由市から受けることにより、経営が成り立っているのが実情でございます。

下水道事業は平成30年度も多額の繰入金を市から受けることにより、経営が成り立っているのが実情でございます。

続きまして資料の右側の(3)「前年度比較表」をご覧ください。

水道事業と同様に、令和3年度と前年度の令和2年度の比較表となっております。前年度との比較で主な増減要因を説明させていただきます。

始めに表－9でございます。年間排水量は、家庭用等の排水量が減少したことにより、前年度に比べ7万7,959m³減少いたしまして740万8,043m³となりました。

続いて下の表－10でございます。下水道事業収益のうち、下水道使用料は前

年度に比べ3,048万9千円減少の10億5,775万8千円となりました。
そのため、収益合計は、9,925万4千円(3.6%)減少の26億3,842万9千円となりました。

一方、下水道事業費用につきましては、汚水の処理費用として支払う流域下水道維持管理負担金、委託料及び支払利息等の減少により、前年度に比べ1億646万9千円(4.7%)減少の21億7,601万6千円となりました。

以上のことから令和3年度の当年度純利益は、前年度と比較しまして721万5千円の増加となりました。

次の5ページ・6ページは、下水道事業の損益計算書・貸借対照表をつけておりますので、ご清覧下さい。